一般社団法人日本医療薬学会
2021年度第5回定例理事会 議事録

一．開催日時： 2021年11月2日（火） 13時30分 ～ 16時40分

二．開催場所： インターネットを介したウェブ会議 （Zoomを利用）

三．出席者

会 頭： 奥田 真弘
副会頭： 武田 泰生、山田 安彦、山本 康次郎
理 事： 石井 伊都子、石澤 啓介、出石 啓治、大谷 壽一、河原 昌美、吉光寺 敏泰、崔 吉道、齋藤 秀之、齋藤 嘉朗、鹿村 恵明、富岡 佳久、村木 優一、百瀬 泰行、矢野 育子
監 事： 大森 栄、佐々木 均、望月 眞弓

陪席者

顧 問： 木平 健治、安原 眞人、和田 一夫
事務局： 星 隆弘、姫嶋 直子、針生 裕子、田中 結寿、大湊 宏味

欠席者

理 事： 田﨑 嘉一、寺田 智祐、
顧 問： 山本 信夫、五十嵐 邦彦

四．議長： 奥田 真弘

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 18 名の出席があり、定款第38条に定める定足数を満たしており､適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1．2021年度第4回定例理事会議事録の確認

議長より、本年9月14日に開催された2021年度第4回定例理事会の議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

2．協議事項

(1) 事務局会議室の増床に係る検討

議長より、前回理事会の議論で、事務局会議室の増床の検討を進めるにあたり、事務局体制のあり方の検討を進めることになったことを受け、第1回公益法人化等将来計画検討委員会（10月19日開催）において事務局体制に関する課題についても協議したこと、その後、会頭と事務局長が話し合いを行い、事務局体制の検討に係る課題として、学会の将来ビジョンの共有、学会事務局の現状と問題、学会事務局のあり方と新たに担っていただきたい役割、学会事務局の運営体制の構築の

４つの項目を取り上げ検討する方針が説明された。本件については、次回の公益法人化等将来計画検討委員会での協議を進め、来年３月までにその時点における事務局体制のあり方に係る一定の方向性を出すという考えが示された。一方では、学会としての将来のあり方やビジョンを示すことの必要性に言及する意見もあり、今後、両者を交えた議論を進めることとなった。

(2) 第 13 回臨時社員総会資料等の確認

石澤理事より、2022 年度事業計画案について、前回の理事会より変更がないことの説明があった。続いて崔理事より、2022 年度予算案について前回の理事会からの変更点に関する説明があった。協議した結果、両案ともに了承され、更なる確認を経て第 13 回臨時社員総会の資料を取りまとめることとなった。

(3) 薬系学会等との連携に係る検討

議長より、日本薬学会より薬学系の学術団体による連合体・協議会の設立に向けた協議の申し入れがあったこと、その背景として医学、歯科科学、看護系では、関連学会が連合体や協議会を構成し各会独自又は共同で声明等の発信を行っているが、薬学では複数の学協会が共同で声明等を発信できる枠組みがないことなどの説明と、本件への対応として第１回公益法人化等将来計画検討委員会で意見交換をした結果、協議に参画する方針となったことが説明された。本件について協議した結果、了承となり、日本薬学会と具体的な協議を進めることとなった。

(4) 学術関連賞（医療薬学会、学術、奨励、Postdoctoral award）の応募書式の改訂

議長より、前回理事会の協議によって再考することとなった学術関連賞（医療薬学会、学術、奨励、Postdoctoral award）の応募書式を再考したことが説明された。協議した結果、さらに一部の表記を修正した上で、当該書式の改訂が了承された。

(5) JPHCS 誌の APC 値上げに係る対応

大谷理事より、JPHCS 誌の APC の改訂情報として、編集社より 2022 年１月以降に投稿された論文から値上額が適用されることが報告された。また、本改訂を受け、現在の著者と本学会の APC の負担率は 33：67 となっているが、APC の改訂後の両者の負担割合を今後も維持する主旨の提案があり、協議した結果、了承された。今回の値上げを機に、本誌に係る APC 負担額の情報を学会ホームページに掲載し周知を進めることとした。

参考情報：『本学会会員著者の APC「￡350→￡392」（約 6,600 円増）、本学会の APC「￡715→￡801」（約 13,500 円増）』

(6) 2022 年度海外研修派遣員の募集

矢野理事より、2022 年度海外研修派遣員の募集要項に係る説明があった。協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響により海外で開催される国際学会や

研修会等にオンラインで参加するケースもあるため、それらの事例も当該助成の対象となることが把握できる表記への修正意見があった。今後、一部の表記を見直した上で後日メール審議を行い、募集を進めることとなった。

(7) 第 36 回年会の年会長候補者の募集

富岡理事より、第 36 回年会の年会長候補者の募集概要に係る説明があった。本件は了承され、募集を進めることとなった。

(8) 創立 30 周年記念誌の原稿の確認

山田副会頭より、創立 30 年記念誌の原稿を基に、完成直前の段階にあることが説明された。また、出席役員に対して本原稿の内容確認の依頼があった。

(9) 第 14 回定時社員総会の開催方法に係る検討

石澤理事より、第 14 回定時社員総会の開催方法に係る検討として、第一選択肢として来年 3 月 25 日（金）にウインクあいち（名古屋市）を会場として対面形式により開催する計画が示された。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大時の代替案として、第 13 回臨時社員総会と同様に委任状・議決権行使書の提出をもって本総会の開催することも示され、来年 1 月には具体的な開催方法を決定し、代議員への周知を進めることとした。

(10) 前年度会費遡及納入に係る嘆願への対応（3 件）

山田副会頭より、前年度会費遡及に係る 3 件の嘆願について、会員委員会で審議を経たことが報告された。協議した結果、本嘆願を了承することとなった。

3. 報告事項

(1) 理事会メール審議に係る報告

事務局より、前回の理事会から当理事会が開催されるまでの間に、メールをもって理事会で審議された案件の概要と審議結果が報告された。

・2021 年度がん専門薬剤師新規認定に関する審議について（9/21）

上記の審議については、了承されたことが報告された。

(2) 2022-2023 年度役員候補者選挙立候補状況

石澤理事より、2022-2023 年度役員候補者選挙立候補状況が報告された。

(3) 第 32 回年会（高崎）準備状況報告

山本第 32 回年会長より、第 32 回年会（高崎）準備状況について報告があった。

オンデマンド配信の期間は 1 ヵ月程とし、現地参加時とオンライン参加時の参加費を同額としたい旨の説明があった。

(4) 第 83 回医療薬学公開シンポジウム開催報告（札幌）

富岡理事より、本年 10 月 17 日（日）に札幌市で開催された第 83 回医療薬学公開シンポジウムの開催概要が報告された。

(5) 令和 3 年度認定薬局等整備事業委託費の交付額決定

出石理事より、令和３年度認定薬局等整備事業委託費の交付が決定されたこと、これを受けて地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修等の促進に向けた研修会の実施計画が報告された。

(6) 2022 年度がん専門薬剤師の追加認定

河原理事より、2021 年度がん専門薬剤師・新規認定申請に係る再審査結果と追加認定者に係る報告があった。

(7) 2022 年度がん介入症例の書き方スキルアップセミナーの開催計画

河原理事より、2022 年度がん介入症例の書き方スキルアップセミナーの開催計画についての説明があった。

(8) 後援申請への回答（3 件）

議長より、次の 3 件の後援申請があり、全ての後援を承諾したことが報告された。

・日本老年薬学会学術大会「第 6 回日本老年薬学会学術大会」
・ＮＰＯ法人がん医療研修機構「第 30 回オンコロジーセミナー」
・AYA がんの医療と支援のあり方研究会「AYA week 2022」

(9) 委員会開催報告

河原理事より、2021 年第 5 回がん専門薬剤師能力向上小委員会についての開催報告があった。

(10) その他

齋藤第 31 回年会長より、第 31 回日本医療薬学会年会の開催に係る中間報告があった。

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 40 分に閉会を宣言し、解散した。